

XenosagaI・II - 第九話 亡霊 - Gespenst -

アレン：主任、いらっしゃいますよね？

—————

あの——

主任！ あ、あの——お茶でもいきませんか？

シェリィさんから美味しいお店、教えてもらったんで——

—————

シオン：———ごめん。いま、そういう気分じゃないんだ。

アレン：あ——あの——

シオン：———

—

ヘルマー『KOS-MOSの深層領域記録は、今日、検証されたよ。

連邦艦体も帰投の準備に入っている。

第二ミルチア自治政府、及び、クーカイ・ファウンデーションに対する嫌疑も、

明日、正式に取り下げられる。——よく切り抜けたな。』

ガイナン：そちらの助力があってこそだ。——礼を言う。

ミズラヒの百式プロトタイプ、相当重要な存在らしいな。

ヘルマー『そうだ、連中がこのまま静観しているとも思えん。用心して欲しい。』

ガイナン：承知している。さて、次はどう出てくる気か——

アレン：主任、泣いてたよね――

二度目かな、主任の涙見たの――

彼女、つらいことがあっても誰にも何にも言わないから――

なんか、あらためて知ったって感じだよ。自分が単なる部下でしかないって。

僕――主任の代わりに泣いてあげたい。いつか、そうなりたい――

ケイオス：なれますよ、アレンさんなら。

アレン：気軽だね。僕や主任のこと、なんにも知らないくせに――

ああ、ごめん――違うや――こんなこと言いたいんじゃないくて――

ケイオス：アレンさんたちと出逢ってまだ日は浅いけれど、僕はアレンさんのこと好きですよ。

アレン：やさしいんだね、君は――

ケイオス：やさしさは――時として人を縛ります。それでも――

――

シオン：――緊急時とはいえ、社内最高機密を連邦政府に無断で提出――これはもう、クビね。

――Jr. くんもつらそうだったな。

他人[ひと]のこと、言えないか――

ネピリム：いま見た未来は、無限にある可能性事象のうちのひとつ――

でも、決定されているわけじゃない。新たに生じた僅かな波が、全体に波紋を広げることもある。

事象は刻々と変化する、漂う波のようなものだから――

シオン：――その波が、私たちだというの？

ネピリム：――その前に、――そのために、過去と向き合って欲しかった。

シオン：ネピリム――フェブロニア――彼女の妹たち――二人を解放するって、どういうこと？

それに KOS-MOS とウ・ドゥ――過去に向き合うって――私、どうすればいいの――？

わかんないよ――なんにも――

— 

マーグリズ『鼠どもは網からすり抜けた——』

アルベド：ほう、ペシエはまだ、奴らの手のうちか。

キルシュヴァッサー：（桃[ペシエ]——百式プロトタイプ——）

マーグリズ『——貴様にとっては、本懐だろう。自慢の玩具、思う存分、使うがよい。』

アルベド：ふふふ——

ひゃあっはは——遂に聴くか——あれを——！！

キルシュヴァッサー：——————

アルベド：あの歌声を——見物[みもの]だぞ！　っひっふふっふっ——ひゃーっはっはっはっ！！

クーカイ・ファウンダーション 

Jr.：おい、ガイナン——こいつは——！

ガイナン：まさか——ネピリムの歌声——！？

—

ケイオス：——ダメだ。

アレン：ケイオスくん——？

ケイオス：歌わせちゃダメなんだ——その歌は——！

曙光 

緋い外套の男：歌声が——

ヴィルヘルム：始まったね。

緋い外套の男：——ミルチア太陽系圏まで、あと16時間です。

連邦艦

第 422 艦隊司令長官：――原因不明とはどういうことか！

オペレーター：原因の特定不可能です――

おそらく、複数の空間歪曲が干渉しあっています！

エネルギー波を観測、実数化します！

第 422 艦隊司令長官：ハイパースペースから攻撃だと！ まさか――奴らか！

オペレーター：来ます！ あと 10 秒――

第 422 艦隊司令長官：グノーシスかっ！

デュランダル

百式：大質量体ゲートアウト！ ――繰り返します、大質量体ゲートアウト！

U.M.N. ジオデシック構造体、強制置換――

Jr.：――グノーシスカ！

モモ：Jr. さん、連邦の艦隊が攻撃されています――！

百式：グノーシス、接近してきます。ファウンデーションとの接触まで、――あと 240 秒！

シェリィ：住民の避難を優先させて。いざとなれば、ファウンデーションを捨てます。

――よろしいですね。

Jr.：ああ、任せる。全住民をデュランダル内に退避させろ。

シェリィ：了解しました、退避勧告発令します。

メリィ：こっちは迎撃準備や、A.G.W.S. 隊、発進急げ！ 百式はヒルベルト発動用意！

ランチ乗り場

『ファウンデーション全市民に伝達します。現在、グノーシス群が出現中。

全市民は、ランチよりデュランダルへ退避してください。繰り返します――』

居住エリア

『ファウンデーション全市民に伝達します。現在、グノーシス群が出現中。

全市民は、ランチよりデュランダルへ退避してください。』

シオン：――グノーシス！？

KOS-MOS なら退避を援護できる。調整槽は――エルザ！

『緊急連絡、艦外アンプリファイアー破損、

ヒルベルトエフェクト、ダウンしました！

全市民は退避を急いでください！ 繰り返します――』

シオン：アンプリファイアーが！？

このままじゃ――グノーシスが市街地に侵入してくる――

KOS-MOS が全域ヒルベルトエフェクトを発動させれば、退避の時間を稼げるわ！

ドックエリア

『コロニー内、第 32 区画にグノーシス出現！ 戦闘員は市民の退避を支援せよ！』

シオン：――急がないと！

『第 18、27 区画にもグノーシス出現！』

エルザ

KOS-MOS：おはようございます、シオン。

シオン：KOS-MOS、状況は把握できてる？

KOS-MOS：はい、コロニー内にグノーシス反応を、多数確認しました。

転移侵入を防ぐため、ヒルベルトエフェクトの発動が必要と認めます。

シオン：ええ、その通りよ。ヒルベルトエフェクト、発動！

KOS-MOS：了解しました。

ブリッジ

百式：エルザ船内より、ヒルベルトエフェクト発動されました。

グノーシス、固着されていきます！

Jr.: よっしゃ、KOS-MOS だな！

百式: ファウンデーション外周部のグノーシス、転移侵入を断念！

メリィ: よし、これ以上は近づけさせへんで！ A.G.W.S. 隊、押し返すんや！

Jr.: まかせたぞ、メリィ！ 俺は内部に入り込んだ奴らを片づける！

ケイオス: それと、退避の支援だ。

モモ: モモもお手伝いをします。

ジギー: 私も行こう。

ドックエリア

シオン: Jr. くん！

Jr.: シオン、さっきのヒルベルト、助かったぜ！

KOS-MOS: お役に立てたのなら、幸いです。

シオン: まだまだ役に立ってもらわよ、KOS-MOS。

ファウンデーションに入ったグノーシスを追い払わないと！

Jr.: そうこなくっちゃ。さ、行こうぜ！

ランチ乗り場

@: キャー——！！

@: バ、バ、バケモノが——！！

シオン: 大丈夫ですか！

@: バ、バケモノが——

シオン: 大丈夫よ、もう安心して！ さあ、ランチでデュランダルへ！

@: は、はい——

シオン: この先にグノーシスが——急がないと——！

第一区画

シオン: もうこんなところまで！

Jr.: ランチのところへは行かせねえ！ ここで片付けるぞっ！

へへッ！ ちょろいぜっ！

ケイオス：まだ他にもいるはずだよ！ 他の場所も見よう！

シオン：そうね！ 急ぎましょう！

—

ケイオス：みんな——ちょっと待って——

ジギー：ああ——なにか様子が変わだ——

Jr.：来るぞ！ ここは俺に任せろっ！

楽勝、楽勝！

まだ他にもいるかもしれねえ！ 油断するなよ！

シオン：わかったわ！

ランチ乗り場

ケイオス：——これで全部倒したかな。

KOS-MOS：いいえ、大きな反応がひとつ、近距離に存在します。

Jr.：そうか——？ 見当たらないぜ？

KOS-MOS：3、2、1——来ます。

【 戦闘 VS ギガース 】

ジギー：今ので、最後か——

KOS-MOS：はい、残るグノーシスの反応は、全てコロニー外から観測されています。

Jr.：よし、俺たちもこの便で向こうに渡ろう。

シオン：ええ、行きましょう！

連邦艦

オペレーター：司令、高熱源体がグノーシス中央を突破してきます！

第422艦隊司令長官：高熱源体？ 所属・種別を特定せよ！

オペレーター：特定不能！――11時方向のグノーシス郡、3000が消滅！

オペレーター：だ、第3から第3分艦隊、交信途絶！

オペレーター：爆散球多数を光学にて確認！

第422艦隊司令長官：な、なにが起きているのだ！

アルベド：ひゃあっははははは！

グノーシス？ ヒトの創りしモノ？ どちらがどちらだか、わからんぞ。

脆い――脆いよなあ！

－ 

Jr.：よし、俺たちも行くぞっ！

シオン：モモちゃん、早く乗って！

モモ：モモは大丈夫です！

負傷した人の応急処置だけでもしないと、出血がひどくて――

シオン：わかったわ、すぐに迎えにくるからね。

モモ：大丈夫、いまナノスプレーで傷の表面をふさぎますからね。

???：――くっくくく、けなげだ。

モモ：――――？

――――！

アルベド：ヒトを真似てみたところで、ヒトになれるわけではなかりょうに。

モモ：あなたは――？

アルベド：お前を迎えに来た者だ。さあ行くぞ、愛しいペシェ[桃]よ――

モモ：あ――――

－

アレン：主任、負傷者は全員、救護室に搬送しました。

シオン：ありがとう、アレンくん。

ジギー：よし、モモのところへ戻ろう。

—

ジギー：む、モモがいない——

シオン：街の方に行ったのかしら——？

Jr.：まったく、世話かけさせやがって—— わかった、うちの百式に走査させてみる。

同機型同士、感応できるはずだ。

ジギー：頼む。コロニー内のグノーシスは片づいたが、いつまた侵入されないとも限らん。

— 

モモ：う——ん——

ここ、どこ——とても、寒い——いったい——どうして私、こんなところに——

——だめ、思い出せない。

——なにかしら、この臭い？ ——とても不安にさせる、微かだけど、どこからか——

モモ：あぁっ！

連邦艦 

オペレーター：グノーシスの転移現象、なおも増大中。

オペレーター：左翼の展開が60秒ほど遅れています。

オペレーター：A.G.W.S. 第二防衛ライン、保ちません！

第422艦隊司令長官：艦隊の陣形を立て直す方が先だ！ おいっ、百式の観測結果は！

オペレーター：先ほどと同じです。グノーシスはクーカイ・ファウンデーションを中心とした、

半径 1600Km の範囲で転移してきます。

第 422 艦隊司令長官： やはりー！ ヘルマーめ、ミルチアの亡霊を継承したという噂、真実だったか。

ー全艦砲門、目標をクーカイ・ファウンデーションに修正！

元凶を叩く！

オペレーター： 了解！

各艦に告げる！ 砲撃目標をクーカイ・ファウンデーションに変更せよ！ 繰り返すー

ー 

モモ： NO.097ーモモの直前に創られた観測用レアリエンー

モモの姉妹ーそうなのねーここは、パパのー

初めて姉妹[あなた]と会えたのに言葉も交わせないなんてー

あなたのこと、パパのこと、たくさん聞きたかったのにー

キルシュヴァッサー： ー

モモ： ー！ まだ生きている？

ねえ、大丈夫！ 誰があなたをこんな姿にしたの！？

ー！

ヨアキム・ミズラヒ『もうすぐーもうすぐ、お前は这个世界に誕生するーそしたら善い行いをたくさんしよう。

そうすればーそうすればお前は、人間になれるんだよ、私のーサクラになれるんだー』

モモ： （パパーー）

アルベド『ひゃあっはははは！ 痛いかな？ 苦しいかな？

お前は偽りのキルシュヴァッサー、ペシェという花が咲くための養分にすぎん。

せいぜい、俺の心も満たしてくれよ。ひいっひひひひ！』

モモ： （いまのはーこれも、あなたの記憶なのー）

あなたは、キルシュヴァッサー、ーあの人に、あんな酷いことをされてー

――――

――ありがとう、モモにパパの姿を見せてくれたのね。そして――

――いるのね、この先に――

デュランダル 

百式：連邦艦隊、ふたたび展開、包囲しつつありあす。主砲、本艦を指向しました！

シオン：もう、こんなときに何を考えてるのよー！

シェリィ：――理由がわかりました。グノーシス郡の動きを御覧ください。

グノーシスが本コロニーを中心に発生しています。

ガイナン：隔離格納庫のゾハルは？

メリィ：眠ってます、活動阻止装置[アトラクト・インヒビター]の出力も正常。

ガイナン：デュランダル内のゾハルがグノーシスを呼んでいないとすると――

Jr.：（ガイナン――さっきから聞こえているこれ、そうだよな――）

ガイナン：（ああ、微弱ではあるが間違いない。皆には聞こえていないみたいだが――）

シオン：ねえ、なにか聞こえてこない？ 歌、かしら――これ。

アレン：歌ですか？ なにも聞こえないですよ、気のせいじゃないんですか。

シオン：そうかしら――たしかに聞こえるんだけどな――

Jr.：（聞こえているのか、シオンには――）

ガイナン：（しかし、この不安感は何んだ。先ほどからずっと脳裏を離れない、このイメージは――）

Jr.：（お前もか、俺もだ。暗闇に引きずり込まれるような この感覚――）

ガイナン：（――――！ まさか！！）

Jr.：（あいつが――――！）

－ 

モモ：やっぱり、気のせいなんかじゃない――これって――

――――――！

キルシュ―ヴァッサー―

酷い―

アルベド： その涙、美しいな。他者を哀れむ涙―この世で最も貴い液体だ。

モモ： ――――！

アルベド： ―とは言え、おまえにその資格があるのか？

死者を弔うのはヒトに固有の習性だろう。

モモ： あなたが―やったんですね。

アルベド： 俺の可愛い観測器[キルシュヴァッサー]たち。だが―これは死体と呼べるのか。

モモ： ――――！

アルベド： ふっふふふふふふ ” 脆き者、汝の名は女 ” ―いや、違うな。

おまえたちは、そもそも女の胎[はら]を経てさえいないのだ。

人は己の脆さに怯え、外界という死の臭いで満ちた海原から逃走して、この世界を築いた。

文化、文明―すべては脆い ” ヒト ” の生み出した生ぬるい幻想の世界だ。

貞操帯に縛られた修道女の妄念に等しい、屑なのさ！

その中にあって、おまえは肉に依存せぬ、身軽な魂であり続ける。

汚れ無き思念―不純物無き波動の螺旋―それは火と息と霊の混合物―

おまえたちを天使と呼ばずして、なんと呼ぼう。

新たにして純粋な意識―必要なものは ” 現実[ル・レエル] ” だ。

そしてそれこそが、俺が求めてやまないもののなのさ。

くっくくくく―

バン！

モモ： あ、ああ―自分の頭を―

アルベド： くう―ひゃっはっはっはっはっはっ あっあっあっははっはっはははっ！

そう震えないでくれ、可愛い桃[ペシエ]。

俺を罪人[ペシエ]のような気分にさせないでくれよな―

モモ： （ああ、Jr. さん―）

アルベド： んんん？ いま、心に男の影を映したな。誰だ、その赤毛は―

赤毛―ールベド、ルベドか―これはいい！ あーはははっ、ひーっひやははは！

あいつは血反吐を吐きながら言ったよ。

” 地に落ちて死なぬ麦は一粒のままである ”

――だとさ。

麦か――麦など掃いて捨てるほど生えてくる。俺の首同様にな！

ひゃーっはっはっはっはっ、お前はどうか、愛しい桃[ペシェ]？

モモ　： ――――

アルベド： んん、もう現実から逃げてしまったのか？ 物足りないなあ。

へへへへへへへ、ひひひひ、ひゃひゃはやはやはははっ　あーっははぎゃはあーははっはあ！

連邦艦

オペレーター： 全艦、クーカイ・ファウンデーションを包囲完了しました。

オペレーター： 主砲斉射、準備よし。

副長： し、司令――師団本部から、攻撃命令は受けていません。

第422艦隊司令長官： かまうものか、奴らの叛逆の事実は明白だ。

これで終わらせる！ 目標クーカイ・ファウンデーション、全艦攻撃か――
な、何事かあつ！

オペレーター： 8時方向に大質量体ゲートアウト！ ゲート内より高エネルギー反応を観測！

オペレーター： エネルギー波、グノーシス郡二万体を消滅させました！

第422艦隊司令長官： そんな馬鹿な――”アレ”がなぜ、こんな場所に――

デュランダル

シオン： しょ、曙光――

ジギー： 曙光だと？ では、あれが――

ケイオス： ヴェクター・インダストリー本社、自由軌道型コロニー”曙光”さ――

曙光

オペレーター：ヴォークリンデ II、ヴェルグンデ、フロースヒルデー――全艦に異状なし。

ラインの乙女、良好です。――第二射まで後 30 秒。

オペレーター：ヴェルグンデ、座標修正完了。

オペレーター：フロースヒルデ、完了。

オペレーター：第二射斉射準備よし。各艦、配置につきました。

ヴィルヘルム：第二射――やってくれ。

オペレーター：了解しました。ラインの乙女、第二射斉射します。

デュランダル 

百式：大出力エネルギー波の第二射を確認。グノーシス郡、さらに二万体が消滅しました！

シオン：ラインの乙女――完成していたのね――

百式：曙光より入電、ウヅキ氏を呼び出しています。

シオン：私を？

Jr.：モニターに出してくれ。

ミュキ『せんぱーい！』

シオン：ミュキ、あなたどこから――

ミュキ『へっへー、どう凄いでしょ！ 見ました、ラインの乙女？

二局に転属願いだしてた甲斐がありましたよ。

でなきゃ、目の当たりになんてできないですからねえ。』

シオン：二局って、あなた――

ミュキ『話はあとあと、KOS-MOS、そこにいます？』

シオン：え、いるけど――

ミュキ『いま、転送[おく]りますね。』

アレン：わっ、なんだこのケース！

ジギー：む――俺の力でも、持ち上げられんぞ。

シオン：ミュキ、これって、PT カートリッジじゃ――

ミュキ『この宙域のどこかを中心として力場のようなものが形成されているんです。

それがグノーシスを呼び寄せている公算が大きいんですよ。』

シオン：力場ですって？

ミュキ『そう、明らかに人為的なものだって、うちの観測室が言っていました。

で、KOS-MOS の D. S. S. S. センサーと曙光のメインフレームをリンクさせてその力場の発生場所を見つけるんです。

相手は潜宙艦のシステムに酷似した方法で潜伏していると思われます。

空間に歪みがあるはずですから、それを広げられれば、

そこに潜んでいるものが、なんであるかわかるんじゃないかって。』

シオン：それで PT カートリッジを――だからって、あなたこれがなんなのか、わかってるの。

ミュキ『もちろん！

――で言いたいとこですけど、転属したてなもので、よくわかんないです。』

シオン：もう――これはね、空間に局所相転移を起こして周辺の全てを破壊する兵器なのよ。

局所といっても、使い方次第では恒星を丸ごと消し去るだけの破壊力を持っているの。

それをこんな、惑星や人工天体、艦隊が密集した場所で使えだなんて――無茶だわ。

KOS-MOS：――シオン。

シオン 「なに？ KOS-MOS。」

KOS-MOS：相転移させる質量を限定すれば連邦艦隊にもクーカイ・ファウンデーションにも

影響を及ぼすことなく実行することが可能です。

シオン：――できるの？

KOS-MOS：お任せください、私はそのために造られています。

ミュキ『ラインの乙女といっても斉射限界があります。

出現するグノーシスに対処しているうちに早く大元を――！』

シオン：だけど――

Jr.：シオン――さっきから聞こえている歌声、シオンには聞こえているんだよな。

シオン：歌声――じゃあ、やっぱりこれは空耳じゃないの――？

Jr.：ああ、俺にも聞こえる。こいつは――ネピリムの歌声だ。間違いない。

シオン：ネピリムの――？ なんなの、それは。

Jr.：――ヨアキム・ミズラヒ、生涯最悪の研究成果さ。

この歌声のせいで旧ミルチアは滅び、グノーシスが出現したんだ。

シオン：――！

旧ミルチアが――

Jr.：ああ、ほんとけば十四年と同じことが繰り返される。すべてが狂う前にやるしかない。

シオン：すべてが狂う――

Jr.：モモだってまだ見つかってない、頼む、急いでくれ。

シオン：そうけど――

ジギー：モモの反応はまだ、感知できないのか？

百式：依然走査中ですが、まだ見つかっておりません。

ジギー：そうか――シオン、決めてくれ。次にグノーシスが侵入してきたら防ぎきれん。

シオン：――――――

――わかったわ、やれるだけやってっしょう。

――

シオン『いいこと、KOS-MOS。相転移質量は可能な限り抑えてね。

力場の発生源がわかればそれでいいんだから。』

KOS-MOS：了解しました。相転移質量調整 0.11MPT、

転移時間 $4.8 \cdot 10$ のマイナス 38 乗にセット。カートリッジ装填します。

ミュキ『D.S.S.S. メインフレーム バイパス確保、全方位で走査開始します！』

KOS-MOS：方位 8018 の U.M.N. 構造体に歪み発見、微弱ですが歪みからコラムパルスが発せられています。

シオン『それよ！ 射線軸は――？』

KOS-MOS：軸線クリア、射撃命令を。

シオン『シェリィさん、全艦の対電磁波防御は。』

シェリィ『準備完了、連邦艦隊にも通達済みです。――いつでもどうぞ。』

シオン『KOS-MOS、相転移砲発射！』

KOS-MOS：了解しました。相転移砲、発射します。

――

アレン：な、なんだあれ――

百式：未確認の人工天体が出現、全長は 80km。

ケイオス：――天の車。

シオン：え？ ケイオスくん、いまなんて――

ケイオス：あれはヨアキム・ミズラヒの研究プラント――過去から甦った亡霊――

天の車――

シオン：天の車――